

東北大学機械系

同窓会ニュース

第23号



叙 勲	2
東北大学機械系同窓会の現状 同窓会への期待	3
大学院教育のグローバル化推進	3
オープンキャンパス開催	4
テニスコート改修のご報告	5
海外長期出張体験記	6
在外研究滞在記(ドイツ)	7
学部3年生の近郊・学外見学報告	7
ホームページリニューアルとWEB・コンビニによる会費支払のご紹介	8
福永久雄教授最終講義	9
同期会報告	10
総会・講演会のご案内	10
学生支援に関するご報告/事務局便り/編集後記	19

東北大学機械系同窓会

〒980-8579

仙台市青葉区荒巻字青葉 6-6-01

東北大学工学部機械知能・航空工学科内

電話：(022) 795-6926

FAX：(022) 795-6926

E-Mail：dousou@mech.tohoku.ac.jp

ホームページ：

<http://alumni.mech.tohoku.ac.jp/>

郵便振替口座 番号 02270-8-11176

名称 東北大学機械系同窓会

印刷 笹氣出版印刷株式会社

会費納入のお願い

同窓会は、会員皆様が入り込まれる会費によって運営されています。同封の振込用紙を使って会費納入をお願い致します。

◎年会費 2,000円

加藤康司名誉教授、瑞宝中綬章、受章に寄せて

機械機能創成専攻 教授 石立 幸志

機械系同窓会の皆様に本学名誉教授、加藤康司先生が平成29年春の叙勲において瑞宝中綬章を受章されましたことをご報告申し上げます。

加藤康司先生は、昭和41年に本学工学部機械工学科を卒業された後、大学院工学研究科機械工学専攻に進学され、昭和43年に修士課程、昭和49年に博士課程を修了されました。この間、昭和46年に東北大学工学部助手として採用され、昭和55年に助教、昭和62年に教授に昇任されました。平成19年3月に定年退職されるまでの37年間、教員として教育研究に従事され、同年4月に東北大学名誉教授の称号を授与されております。

この期間の昭和60年には1年間、米国のNASAにて学術研究会議研究員を、平成4年には半年間、英国リーズ大学にて客員教授をおつとめになりました。

私は、加藤先生が教授に昇任された年に学部4年生として研究室に所属し、ご退職まで学生及び教員として一緒の時間を過ごす幸運に恵まれ、教育者および研究者としての姿勢を学ばせていただきました。

加藤先生が推進しておられた研究は、1966年(昭和41年)にイギリスにおいて導入されたトライボロジー(摩擦・摩耗・潤滑を包括する接触面の科学技術)に着眼され、独創的な手法を用いた摩擦と摩耗の微視機構の解明から、それらの理解に基づいた応用技術の開発まで、黎明期にあつたトライボロジーの学問体系の確立とトライボロジーが可能にする広

大な応用技術を発展させました。これは効率的なエネルギー活用と安全安心な社会構築の鍵を握り、現在の工業技術、エネルギー産業の根幹を支える科学技術としてのトライボロジーの構築に大きく貢献されたものであるといえます。

なかでも独自に開発された装置による微小接触点における変形、滑り出しや摩耗の走査電子顕微鏡(SEM)内その場観察に基づく、摩擦の起源、摩耗粒子の発生機構と摩耗形態の解明により、その場観察手法の重要性と有効性を世界に明示し、その後のトライボロジーの基礎研究に大きな転換をもたらしました。また摩擦と摩耗を統合した摩耗形態図を創成し、耐摩耗設計の基礎を与える摩耗マップとして摩耗研究の世界的潮流の源となりました。

また、これらの摩擦と摩耗の微視機構の理解に留まることなく、それらを制御するための新しい潤滑法や摩擦を利用する技術としての超音波による摩擦駆動法は、世界が追従する技術の源となるとともにウオータポンプや半導体検査装置用精密位置決めステージなどの実用技術に発展することとなりました。

そのような研究業績に対し、平成19年に「トライボロジーに関する研究」として日本学士院賞を、平成20年には、トライボロジー分野における世界最高の賞であるトライボロジー・ゴールドメダルを受賞されております。またそれらの研究成果は世界的に広く認識され、数多くの招待講演を行うなどその世界的な功績は

大きく、米国トライボロジー学会国際賞と米国機械学会 Mayo D. Hersey Award を日本人として初めて授与されております。さらに仏国リヨン工科大学の Haute Distinction Honoris Causa (最高栄誉学者)を日本の大学人として初めて授与され、スウェーデン王立工学科学アカデミーの外国会員にも選出されております。

このような国際的な活躍をされる先生のもとには研究者や技術者が集まり、「ペストイメージ」の重要性を理解し、物事の本質を追求することの大切さを知る数多くの博士、研究者、技術者の育成に尽くされました。外国人研究者も数多く、その数は研究室総メンバーの20%に達し、研究室は常に国際的な雰囲気醸成しており、そこには現在強く求められておりますグローバルな人間が育つ最高の教育環境が存在しておりました。

本学退職後の平成19年には、日本大学工学部教授に就任され、健康で持続可能な生活様式を実現する工学技術「ロハス工学」を推進し、ロハスの概念を体現する「ロハスの家」の研究を立ち上げ、東日本大震災で重篤な問題として指摘されたエネルギーハーベスト及びその有効活用に関する教育と研究において大きく貢献されました。

また平成10年より4年間の機械系長、平成18年の日本トライボロジー学会会長、数多くの国際誌の編集委員など、学内外、国内外において教育と研究の発展に多大なる功績を残されました。

今回の瑞宝中綬章受章は、これらの永年にわたる教育と研究に対するご功績が高く評価されたものであり、本会員にとりまして誠に喜ばしいこととご報告させていただきます。

東北大学機械系同窓会の現状 —同窓会への期待—

東北大学機械系同窓会 代表幹事
機械機能創成専攻 教授
足立 幸志

衝撃的な事実をご報告致します。平成7年に発足した東北大学機械系同窓会は、卒業生、修了生、教員等で構成される会員が14,255名を数えますが、本年度の会費を納入いただきました会員数は1,458名であり、その会費納入率は約10%となります。この数字は年々減少しており、さらに20〜30歳代の会員においてその納入率は一桁少ない数字となっております。本会の活動が主にこの会費で運営されていることを鑑みますと、この現状は、あと数年で同窓会の活動自体が立ちゆかなくなる危険性を明示しております。

東北大学機械系同窓会の「意義」、「目指すべき姿」、そして「同窓会に求めるもの」を真剣に考える動機として十分すぎる現状がここにあります。

このような現状を真摯に受け止め、ここ数年、東北大学機械系同窓会の「目指したい姿」を考えながら、会費納入率のV字回復、同窓会の活性化を目指した様々な取り組みを行っております。昨年発行いたしました同窓会ニュース第22号において、それら活動状況の一部を「最近の東北大学機械系同窓会」としてご紹介させて頂きました（同窓会HPから読むことが可能です）。その中の一つである同窓会の繋がりを生かした卒業生と現役学生の融合の場を提供する「機械系オープンフェスティバル」は、同窓会活

性の重要な企画であり、会員と現役学生のみならず会員同士の新しいコミュニケーションの場としても有益に活用され始めました。今後も発行物の活性化、ホームページでの発信情報の魅力化、各地での同窓会イベント開催、会員紹介企画、学生支援企画など皆様の会費納入意欲を沸き立たせていただける新たな試みを展開して参ります。会員皆様におかれましては、母校に対する思い、共に学んだ仲間との深いつながり、そして自分自身のキャリアアップなどを思い描きながら、今後の同窓会への期待、要望、提案など忌憚のないご意見をお寄せいただきたく存じます。

一方、本同窓会ニュースに詳細を掲載しております通り、従来の郵便局での振込に加えコンビニエンスストアでの納入、ネットバンキング及びオンラインでの納入も可能になり会費納入にあたっての利便性は格段に向上致しました。お気持ひとつで、その場でスマートフォンやPCから直ちに納入頂けます。是非お試し下さい。

最後になりますが、昭和42年精密工学科卒業組「精密42会」の皆様より卒業50年の記念として機械系同窓会に寄付を頂戴いたしました。会員皆様にご報告申し上げますとともに、この場をかりて御礼申し上げます。

今後とも東北大学機械系同窓会活動に対するご支援をお願い致します。

大学院教育のグローバル化推進

前機械系主任専攻長（平成24〜27年度）
先端材料強度科学研究センター 教授
三浦 英生

これまで学部教育の世界への門戸解放の具現化を機械知能・航空工学科として進めて参りまして、昨年10月から国籍条項を撤廃した国際機械工学コース（完全英語教育コース）がスタートいたしました。昨年お知らせいたしました日本人を対象としたグローバル入試を通し、2名の日本人（内1名は女子学生）も入学し、お陰様を持ちまして名実ともに国際共修コースとなりました。キャンパス内外で豊かな国際交流がさらに活性化することを大いに期待しております。本国際機械工学コースは高校生向けの教育情報雑誌（View21）の2017年12月号でも「世界各国の学生と英語で学び、世界で活躍する科学者を目指す」と題して取り上げられ注目を集めております。今後世界を跋扈する夢を持った多くの高校生が挑戦してくれることと思います。

平成30年度からは大学院教育もグローバル化対応を加速いたします。まず、博士課程前期2年の課程（修士課程）の講義を原則クォーター制に移行します。学部教育と異なりますのは、講義は週2回ではなく、週1回の講義を3時間とし、8週で単位取得が可能となる点です。博士課程の講義のほとんどが3日間の集中講義体制で実施されていることから、学生の集中力の持続時間を引き伸ばすとともに、討論の充実や演習など講義内容にも多様性を持たせることができるものと

期待しております。本クウオーター制の導入で2ヶ月単位で履修計画を構築することが可能となり、短期交換留学や共同研究がさらに活性化すると考えております。

海外の大学との連携強化を目的とした機械科学技術国際共同大学院プログラム（代表・吉田和哉教授）も平成30年度よりスタートいたします。これは本学のグローバルイニシアチブ構想（世界から尊敬される30傑大学へ）のもと、世界の研究者や技術者と連携し、大型プロジェクトの中核として活躍でき、アカデミアやグローバル企業などにおいて、世界規模の技術革新に貢献する能力を有する若者を育成する修士5年一貫教育研究プログラムです。主として航空宇宙機やロボットに代表される機械システムのインテグレーション実現する設計開発、創成能力を醸成強化するため、米国ワシントン大学や独逸ミュンヘン工科大学など、世界レベルの研究教育拠点大学と連携し、1人の学生が海外大学含む複数の指導教員のもと研究を推進するジョイントリソースパーバイズド学位取得プログラムとなつているのが大きな特徴です。教育、研究指導は全て英語で行われ、先ほどご紹介しましたクウオーター制カリキュラムのもと、学生たちは交換留学も体験しながら世界を駆け回ります。

さらに従来の国費留学制度が改定され、機械系4専攻を対象としました国費留学生優先配置プログラム「国際ロボティクスプログラム（代表・村田智教授）」も平成30年10月からスタートします。これも英語教育国際機械工学コース（IMACOG）を基軸とした修士5博

士一貫教育プログラムで、留学生限定ではありませんが手厚い経済支援が可能となり、海外から優秀な学生達がこれまで以上に集いやすい環境が整備されたものと期待しています。

以上、学部から大学院まで本機械知能・航空工学科、大学院機械系は日本国内で先駆けとなり、世界に向けて真の教育の門戸開放を実現する教育制度と研究指導体制を構築することができました。諸先輩方におかれましても、ご理解と強力なご支援をお願いしたいと存じます。最後になりましたが、皆様、ご家族様のご多幸とご活躍、ご健勝を祈念し、報告とさせていただきます。

オープンキャンパス開催

機械系広報推進室 室長
航空宇宙工学専攻 教授

浅井 圭介

平成29年7月25日から2日間の日程で、機械知能・航空工学科オープンキャンパスを実施いたしました。来場者数は、合計3,840名でした。初日に雨が降りましたが、来場者数に天気の影響は見られず例年とほぼ同数でした。学校行事での来学が多く、高校生だけでなく保護者の方々にも多数お越しいただきました。

本年度の新たな工夫としては、これまでコースごとに自由に配置していたのぼり旗を計画的に配置することで、来場者に会場内の誘導線を設けるとともに、会場全体にイベントの雰囲気を広げる演出をいたしました。また、安全対策におい

ても、学科内の連絡体制を再整備し、研究室展示の際の避難経路の確保を徹底するなど、来場者およびスタッフの安全を第一に運営を行いました。

地下鉄東西線の開通後2年目で、昨年よりも地下鉄での来場者が増えることが予想されましたので、キャンパスの東端である当学科では、材料科学総合学科と協力し、地下鉄を利用した来場者に対して、工学部内を七分間隔で往復するエリパスの利用を促し、来場者の利便を向上しました。

テーマを「ゆめ・きかい・東北大」とし、研究室公開を中心とした各企画を実施しました。研究室公開には7コースで計102の公開テーマ数があり、各研究室で高校生向けに工夫を凝らした展示が行なわれました。来場者のアンケートによると、良かった企画として研究室公開を挙げた方が7割を占め、「楽しかった」「説明が丁寧で分かりやすかった」「興味・関心をより持てるようになった」「勉強のモチベーションがあがった」等の感想が多数と大好評でした。指定のエリアのスタンプを集めて回る学科スタンブラリー企画も180名以上の方に完走していただきました。

オープン講義では、コースや分野が異なるように講師を選出し、6名の教授が講義を行いました。参加者へのアンケートには、「知らなかつた分野を知ることができ興味がわいた」「分かりやすかつた」という回答があり、オープン講義が新たな興味を引きだす良い機会になったようです。

企業展示を中心とした機械大博覧会では、7企業、2団体、1研究室の展示を

行いました。企業・団体からの協力を得て、電気自動車の試乗体験や、スケルトンカーの展示を行い、毎年行うクラシックカーのエンジン始動実演は、時刻をアナウンスしていたこともあり、例年以上



オープン講義の様子



機械知能・航空工学科受付の様子



誘導の役割をした各コースのぼり旗

の見学者が集まりました。来場者には、自動車・交通系の様々な展示を一度に体験できる場となったので、大学で学ぶ技術がどのような製品に応用されるのかを体験してもらおうことができたと思います。企業展示には、学科のOBにも説明員として多数参加していただき、卒業後の進路の一例として来場者にPRしました。学科インフォメーションでは、女子学生特別企画・学生生活情報コーナー・コンシェルジュコーナー等の企画を設け、見学のサポートとなる情報提供についても充実を図りました。

来場者には、本学機械系では幅広い分野の研究が世界トップレベルで行われていることを肌で感じてもらう良い機会になったことと思います。最後に、関係各位、ご参加いただいた同窓会の皆様方に厚く御礼申し上げます。

テニスコート改修のご報告

機械系主任専攻長
航空宇宙工学専攻 教授
澤田 恵介

穏やかに晴れわたった絶好のテニス日和のもと、改修工事が無事に完了した機械系テニスコートのオープニングセレモニーが平成29年10月1日(日)の午後に執り行われました。セレモニーには、改修資金をご提供いただきました機械系同窓会を代表して足立幸志教授と、同じく改修資金を残して退職されました和田仁名誉教授のご出席を賜りました。当日は橋田俊之教授、佐藤孝光技術職員ならびに材強研の学生の皆さんが集まってくださり、和やかな雰囲気の中、和田先生による打ち初めの快音がテニスコートに響きました。

機械系に限らず、近年活発な研究活動が展開されています。工学研究科の各系では、新たな建物を建てるために多くのテニスコートが姿を消しました。そのような中、機械系では多くのテニスファンに支えられてテニスコート1面を何とか維持してきましたが、近年はコート面の割れに足を取られた怪我が発生するなど経年劣化が目立つようになり、早急な改修が望まれていました。

2011年の東日本大震災の後、機械系同窓会の皆様から頂戴しました復興に向けた寄付金と、和田先生の残された資金を併せてコート面とフェンスの同時改修が可能となり、ようやく今回、改修が実現された次第です。おかげさまで、最高級のオムニコートに改修されたテニス



足立教授と
同窓会の援助を示すプレート



和田先生、ナイスショット!

コートはその後、多くの学生並びに教職員の皆さんに活発にご利用いただいております、素晴らしいコートになったと大変好評です。改めまして、機械系同窓会の諸先輩方ならびに和田先生よりの温かいご支援に感謝申し上げます。

海外長期出張体験記

機械機能創成専攻 准教授
福島 誉史

文科省の研究大学強化促進事業「若手リーダー研究者海外派遣プログラム」の平成27年度後期の募集を利用し、5ヶ月間の延長を含む2016年3月から2017年7月まで海外長期出張を経験させて頂きました。私が滞在したのは、大学のベンチマーク校にも指定されている

米国 University of California, Los Angeles 校 (UCLA) であり、Electrical Engineering Department の Distinguished Chancellor's Professor Subramanian S. Iyer (ニックネーム: Subu) が立ち上げた Center for Heterogeneous Integration for Performance and Scaling (CHIPS) で客員教員として研究に参画しました。LAX (ロサンゼルス国際空港) から20kmほど北上した非常に安全な地域にあり、Uberを使えば\$20程度で到着できます。ところが、昨年上映されたLA LA LANDでも象徴的であったように、片側7車線もある無料の高速 (Free Way) 405が頻繁にGWのような渋滞になります。東に4kmほど行くと Beverly Hills がある立地ではありませんが、大学周辺で学生向けと云われて借りたアパートが1Bed Roomで20万円を超えたように、物価が想像以上に高いことには唖然としました。夜を除いて1年中半袖でも過ごせる陽気な天候は、研究だけでなく生活面でも大変居心地の良い環境でした。フレンドリーな人が多いですが、Professorと呼ぶことが多いですが、ポスドクや同僚からはニックネームで呼ばれるSubuも非常に気さくな先生です。学生を連れて大学周辺に飲みに行くこともしばしばであり、コミュニケーションをとっても大事にしています。毎週行っているグループ内の研究打合せに、議論の対象となる分野を専門とする他専攻の教授を連れてくることもあり、常に活発な議論を交わっています。

米国IBMにて長く活躍していたSubuは、私が滞在する1年ほど前から母校のUCLAに戻って教鞭をとり、将

来の脳型コンピュータを見据えた新しい集積化システムについて研究を開始していました。研究室が立ち上がり始めたばかりで一から始める研究が多かったので、私が提案した高集積フレキシブルシステムの研究に対しても意気投合して円滑に開始できました。幸い博士課程1年生が私と研究を行うことになり、ポスドクも加わり順調に研究が進みました。研究の途中で帰国することを懸念していた私はSubuからの提案もあり、5ヶ月延長することを本部にも認めて頂き、無事成果を論文にまとめて日本に戻ることができました。一つ驚いたのは、この博士課程の学生が最初なかなか実験室に来ないので不思議に思っていたら、全ての授業でホームワークがかなり多いようです。修士の資格がなくても博士課程に入学できるため、最初の1-2年目ですっかりと基礎を学び、Prelims (Preliminary Examination) と呼ばれる予備試験を受け、これに受かるとPh.D. Candidatureとして認められて本格的に研究ができます。Prelimsでは、1人の学生について6名ほどの教授と個別に各30分ほど面接および筆記形式で試験が行われ、専門分野の基礎的な現象や原理の説明の導出などを問われます。講義は機械系でも導入したクォータ制で、朝8時より2時間ずつ (10分の休憩を含む) 1日6コマに分かれ、夜8時に終わる授業もあります。1つの講義が1週間に4時間 (例えば、月水の2-4時) もあるので、学習の効率は高いと感じました。インターシッピングも盛んであり、一般的には半年間、長くと休学して1年間行く者もいる点は日本と大きく異なります。

UCLAでは研究だけでなく、授業や学生との触れ合い、White Paperの作成を含めた予算申請、特許出願まで経験でき、非常に貴重な時間を過ごすことができました。今回の長期出張を無事に終えるにあたって多くの方々のご支援を賜りました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

在外研究滞在記（ドイツ）

機械機能創成専攻 准教授

戸田 雅也

科学研究費助成事業、国際共同研究加速基金（強化）に採択され、海外との共同研究を加速推進する目的で、ドイツ国マインツ市にあるマックスプランク高分子研究所に、平成二十八年十月から平成二十九年三月までの六ヶ月間を滞在し、共同研究を進めてきました。

滞在先のマインツは、活版印刷発祥の地といわれ観光地としても有名ですが、市内にあるマインツ大学（グーテンベルク大学）はドイツでは数少ない総合大学として規模が大きく、また学生の多い都市としても知られています。西ドイツを縦断するライン川沿いにあり、地ビールだけで無く、地元ラインヘッセンの白ワインが郷土料理屋で飲むことができま

す。周りには、空の玄関口であるフランクフルトや大聖堂で有名なケルン、温泉保養地として有名なヴィースバーデンなどがあります。季節も良く、みなさんにもぜひ機会があれば訪問をおすすめしたい都市です。

この長期海外出張は、滞在先の海外で

研究遂行に必要な物品購入に研究予算を使用することが認められていている出張でした。実験に必要なものはすぐこの研究予算で購入できました。しかし、短期間であること、期間終了後に機器の所在や輸送等で相手先に迷惑をできるだけ掛けることのないように、実験機器で滞在先ですでにあるものは、できるだけそれを借りて使わせてもらうようにいたしました。研究所内で機器を貸していただいた研究者の方々には大変感謝しております。滞在先で独立した研究資金があることから、実験に必要な物品はすぐ自ら発注できたので、現地での実験遂行を比較的スムーズに実施することができました。

研究所での滞在中は、物理系の *Buig* ループに訪問研究者として所属し、毎週ある研究ミーティングにも同席させていただき議論することもできました。*Zaimu* 雑誌に掲載されています盛り上がっている研究チームがあり、人も増えて活発な議論がじつくりとなされています。また、大学から学部・修士クラスの学生も短期で受け入れて教育活動も実施しているので、そういったドイツでの教育現場に触れることもできました。一方で、六ヶ月間不在にしている日本の研究室との関わりは、できるだけ離れないよう毎週の研究ミーティングには、*Skype* を使ったネットミーティングで音声と映像を繋ぎ、研究室の研究進捗状況をできるだけ把握するように努めていました。今後、共同研究の厚みを増やし、さらなる研究成果獲得を目指し、まい進して参りたいと思います。この度は、半年間工学部・工学研究科を離れ、大変貴重な体験をすることができました。このよう

な貴重な海外滞在の機会を認めご支援いただいた小野教授を始め、機械系の先生方・事務職員の方々、また研究室のスタッフの皆様には、この場をお借りして深く御礼申し上げます。

学部3年生の近郊・学外見学報告

環境科学研究科 准教授

八代 圭司

機械系4コースでは、学部3年生の正規授業の一環として、多くの企業様、研究所様のご理解とご協力を賜り、学外の工場等の見学を学科創設以来実施させていただいております。近年は、近郊見学と学外見学を一体化し、「近郊・学外見学」として9月頃に実施するのが恒例となっております。その目的は、企業や研究所における生産活動や研究開発の現場を見学することにより、機械工学に関する大学での講義、実験および実習が実社会においてどのように活かされているか学ぶことにあります。

平成29年度は、バイオロボテイクスコース51名が9月5日～8日において、機械システムデザインコース47名、ナノメカニクスコース42名、航空宇宙コース45名が9月19日～22日において、東北電力、東芝メディカルシステムズ（現…キヤノンメディカルシステムズ）、日立製作所、東京ガス、新日鐵住金、日産自動車、SUBARU、IHII、日本精工、TOTO、JFEエンジニアリング、小松製作所、宇宙航空研究開発機構、日本航空、JFEスチール、東芝、本田技術研究所、ジャパンマリンユナイテッ

ドの各企業様、各機関様のご理解とご協力を頂き、見学させて頂きました。各コースは担当教員2名が引率し、小職も機械システムデザインコースの引率を務めました。

近郊・学外見学を実施し、このように数多くの企業や研究所を見学させて頂く機会は、学生にとりまして将来の進路を考慮する上での貴重な経験になり得るものと考えております。現在専門科目について主に座学で学んでいる3年生ですが、各所で製造工程や研究開発過程を直接見学させて頂くことで、普段教室で学んでいる事柄が、実社会でどのように使われているかを実感し、勉学に対する意欲もこれまで以上に湧いてきたものと思います。また多くの企業・研究所では、機械系OB・OGの先輩方から直に仕事のお話を伺いながら質問ができる機会を設けて頂き、参加した学生からは、この時期に様々な職種の会社を数多く見学し、実際に働いているOB・OGの方々とお話しすることで、これまで具体的に想像できなかった自らの将来像について改めて考えることのできる良い機会になったとの感想が多くありました。

本近郊・学外見学は、各企業・研究所の皆様のご協力、また貴重なお時間を頂戴することで成り立っております。ご協力くださいました各社、各機関の皆様には、ご多忙のところ事前の準備から当日の仔細にわたるご対応、また数々のご配慮を賜りましたこと感謝の念に堪えません。心より厚く御礼申し上げます。今後「近郊・学外見学」を通じて、実社会における工学実践や研究開発に触れる貴重な場を学生達に提供して参ります。毎



年度の初頭には、引率担当教員が見学行程の計画を開始し、同窓会員の皆様をはじめ関係者の皆様に見学をお願いすることもあるかと存じます。ご多忙の中とは存じますが、変わらぬご理解とご協力を賜りたく何卒どうぞよろしくお願い申し上げます。

ホームページリニューアルとWEB・コンビニによる会費支払のご紹介

東北大学機械系同窓会 幹事
情報科学研究科 准教授
佐野健太郎

この度、機械系同窓会のホームページをリニューアルすると共に、WEBによるオンラインでの会費支払や、コンビニエンスストアでの会費支払を可能としました。

新しいホームページでは、WordPressというコンテンツマネジメントシステム(CMS)に基づくシステムを導入し、最新ニュースや会員への案内事項などを迅速かつ分かり易く掲載できるようにしました。従来のホームページは、コンテンツの掲載の為にhtml(ハイパーテキストマークアップランゲージ)というホームページの記述言語によるコードを直接書き換える旧来型のシステムでした。このため、更新に時間がかかることに加え、見やすさの点でもレイアウトに一部問題が生じていました。今回の更新では、CMSを利用することにより、WEBブラウザ上で入力するだけで、様々な情報や記事、および画像やファイル等をアップロード可能になりました。また、CMSが自動でページレイアウト等を整形するため、従来と比べても見やすかつ魅力的なページ構成となりました。

加えて、従来には無かった機能として、ホームページ上で同窓会事務局への問い合わせや会員情報の変更依頼ができるようになりました。これにより、例えば総会の出席等の連絡をWEBからの問い合わせとして一元管理しながら取り扱うことが可能となりました。問い合わせへの迅速な対応が可能となり、会員の皆様へより一層のサービス向上につながるものと期待しています。新ホームページのURLは<http://alumni.mech.tohoku.ac.jp>で、PCの他、スマートフォン等からもご利用頂けます。是非ご覧ください。

次に、同窓会会費の支払い方法として、新たに、ホームページを介したオンライン支払、およびコンビニ支払がご利用頂けるようになりました。前者は新ホーム

ページのトップページの右側にある「会費WEB決済のご案内」のリンクから開始することができ、stores.jpというサービス介してオンラインで支払を行います。会費1年分の2千円から10年分の2万円まで、金額を自由に選べます。また、支払方法にはクレジットカードや携帯電話会社の請求を利用する方法が選択できます。クレジット手数料は同窓会で負担します。また、この方法に加えて、ニューズレター等に同封の専用の支払い用紙を用いることにより、各コンビニエンスストアの店頭にて会費を支払うことが可能となりました。以上、PCやスマートフォン等によりその場で、または最寄りのコンビニで24時間手続きできるようにした今回の更新は、会員の皆様の利便性向上につながるものと期待しています。

皆様の会費は主に、同期会支援・学生支援、WEBによる情報発信、毎年の印刷物(同窓会誌・ニュースレター)の発行・送付、総会・オープンフェスティバル等の各種イベントの企画・運営、事務局の運営等に利用させて頂いており、同窓会の活動に不可欠のものとなっております。ホームページリニューアルや新しい支払方法を会員の皆様知って頂くと同時に、引き続き同窓会の活動にご支援を賜りたくお願いを申し上げます。

福永久雄教授最終講義

航空宇宙工学専攻 准教授

榎原幹十朗

平成30年3月末をもって、航空宇宙工学専攻教授の福永久雄先生が定年退職を

迎えられます。

福永久雄先生は、1975年3月に東京大学工学部航空学科を卒業され、1980年3月に同大学院博士課程を修了されました。1980年4月に東京大学宇宙航空研究所助手に就任され、東京大学工学部助手を経て、1984年10月に科学技術庁航空宇宙技術研究所研究員に就任されました。同主任研究官を経て、1990年10月に東北大学大学院工学研究科航空宇宙工学専攻助教に就任されました。1996年11月に同教授に昇任されました。

福永先生の御研究は、「ハイブリッド複合材料・積層複合材料の力学特性および最適化の研究」、「航空宇宙機複合材構造の最適構造設計の研究」、「航空宇宙構造のヘルスマニタリング・損傷同定・衝撃同定に関する研究」にわたり、航空宇宙工学に関わる構造力学の基礎理論とその応用に関する広範囲な研究を系統的に行ってこられました。ハイブリッド複合材料・積層複合材料の力学特性や炭素繊維複合材料の強度解析の研究として、先生が精力的に取り組まれた「積層パラメータ」という概念があります。革新的な複合材構造の定式化として高く評価されており、今なお複合材構造の設計指針として国内外で広く用いられています。また、当時の亀山正樹助手と一緒に取り組まれた「空力弾性特性の最適設計研究」では、翼構造に積層パラメータを巧みに導入し、弾性主軸方向の剛性および曲げ・ねじりカップリングが空力弾性特性に及ぼす影響が可視化されることになりました。

最近では、跡部哲士助教と精力的に取り組まれている「損傷同定・衝撃同定に基

づく航空宇宙構造物のヘルスマニタリングの研究」があります。衝撃荷重同定に基づく損傷モニタリング法、ラム波に基づく損傷モニタリング法という2つの損傷モニタリング手法を開発されました。また、センサとしてマイクロフォンを用いた音波計測による非接触・実時間の異物衝突監視システムも構築されました。

学外の公的活動としては、日本航空宇宙学会、日本機械学会、日本複合材料学会の要職を務められ、各学会の発展に多大な貢献をなさいました。日本機械学会フェロー(2007)、日本複合材料学会フェロー(2011)、日本航空宇宙学会フェロー(2014)の各学会フェローの称号を受賞されています。さらに、学術界のみならず地域教育の発展にもご尽力されました。

福永先生は、温厚で気さくな人柄をお持ちで、学生に対しても常に紳士的に気遣って接してこられました。そのため、学生からも深く慕われています。優れた研究業績と人材育成の両面で成功されました。ご退職後も後進の歩みを温かく見守って頂ければ幸いです。

なお、最終講義は平成30年2月23日(金)、機械系第1講義室にて「CFRP構造のヘルスマニタリング」と題して行われます。福永先生の御研究の集大成となる貴重な御講演となりますので、是非御参加下さい。

同期会報告

機械三十二年卒クラス 会（第一〇回樹の実会） 報告

平成29年9月29日（金）ー30日（土）に第10回樹の実会の会合が東北大学百周年記念行事への参加を兼ねて開催された。平成25年10月に、東日本大震災後の登米・南三陸町の復興状況の視察を兼ねて、松島で開催されてから4年後の開催となった。卒業時は60名の会員であったが、その後、60年が経過し、18名が逝去、体調不良やその他の事情での不参加23名で、19名の会員が元氣に参加した。29日の18時ホテルモントレ仙台に集合し、18時30分から記念写真を撮り、宴会に入る。関弘一会員の司会で、神山新一代表幹事が開会の挨拶、渡部栄久幹事の乾杯の音頭で宴会が始まった。会員の近況報告に全員に3分間スピーチをお願いした。20時30分、会員のスピーチが一回りしたところで、宴会を切り上げた。翌日は、9時30分にバスで茂庭荘に向かい、休憩（入浴も可）、鍾景閣（旧伊達邸）の見学後、昼食を取り、出発、13時に東北大学秋ホールに到着し、13時30分からの秋友会の記念祭典に参加した。本年から新たに企画された「思い出のステージ」のプレゼンテーションでは、工学部機械科50期卒の幹事（神山新一）が「学生時代の思い出とその後の50期生の歩み」と題して、同窓会（樹の実会）の活動を中心とした発表を行った。祭典の最後を飾って、応援



団の指導の下、全員で「青葉もゆる」を斉唱した。17時10分、祭典の終了後、自解散となった。

神山 新一

（機械工学科32年卒）

機械三十九年卒同期会

平成29年10月28日に東京は南青山の青山クラブ（東京ガスの福利厚生施設）で昭和39年卒業の同期会（東北39会）を行いました。関東、東海、関西の3支部各地で数名の同期会は随時行っているも

の、全体会としては近年は概ね2年毎に行っており、今回は第9回に当たります。出席者は毎回30名を越えてはいましたが、さすがに卒業後54年を過ぎると故障者が多くなり、今回は28名の出席となりました。それでも同世代の中では出席率は高い方だと思われず。

司会の酒井幹事から開宴の辞の後、いつもの通り故人となった恩師と同期生（5名）に黙とうを捧げました。続いて本会の状況説明などが今野幹事からあり、会場に最も近い原山君から歓迎の挨拶と乾杯が行われました。宴会が始まると、酔う前にということで本会場をセツトした田辺幹事から料理や各種お酒の紹介、更に欠席者からの便りの紹介がありました。料理もお酒も余る傾向がありましたが、いかんせん高齢者であるため、いずこの同期会とも同様に話は弾みます



が飲食はイマイチになります。

これもいつもの通りですが各自1分間スピーチに入りました。皆さんは話す内容には事欠かないぐらいに積もる話がありますのでとても1分間などでは終わらず、幹事は時間までに全員できるかヒヤヒヤしています。どうしても多くなるのが闘病で、手術などはむしろ武勇伝の自慢話になります。次に多いのが趣味でしょうか。ゴルフは勿論、菜園作り、ボランテニア、執筆などが続きます。

中休みの後、新岡幹事から東北大学や機械系の簡単な近況報告と恩師の消息が報告され、続いて東海支部(今野君)、関西支部(金子君)、関東支部(田辺君)の報告があり、再度スピーチに戻りましたが、相変わらず1分間では間に合わなかったようで、とうとう幹事4名のスピーチは省略しなければならぬ程でした。

今回は第10回に相当しますので特別企画にしようかとか何処がいいのかなど意見を伺いましたが、酔いも回ってきたためなかなか意見は集約するのが難しく、とにかく絶対に集まろうという点だけははっきりしましたので幹事が案を練ることとしました。

いつもながら最後は富松君指揮のもと、肩を組んで声高らかに学生歌「青葉もゆるこのみちのく」を歌いました。学生歌は当初公募などを経て毎年追加されて7曲ぐらいあつたと聞いておりますが、創立100周年記念の折にこの歌が公式に学生歌となったようです。この歌は歌っているうちに青葉のみならずなぜか心もえるようで、毎回結局2回歌うことになり、なお一層心に染み渡ります。

集合写真を撮った後、明治神宮散策と

折しも開催中のモーターショー見学に分かれてそれぞれ帰ろうとしましたがあいにくの雨で神宮散策は中止し、次回も絶対に会おう！と三々五々別れました。このメンバーの誰しも最近まで日本の発展を支えた強力な集団だったことは紛れもないことであり、今だにその意気は高く誇らしさを感じるのは筆者だけではありませんまい。

新岡 嵩

(機械工学科39年卒)

機械四十二年卒同級会

我々の同級会は3年毎に1泊2日の予定で開催することが定着して来た。今年度は卒業50年目の記念すべき年に当たると同級会の開催については、昨年より2年越しで検討することになった。横浜同級会幹事会(菊池、宮崎、高橋(昭)、広野、君塚、森、小林、竹政)は2度ほど横浜駅へ集合し、今年度の横浜同級会計画を練ってきた。その間、幹事会の主要メンバーであった高橋正嗣君、吉田則彦君が思いもかけず病逝するという悲しみに直面した。両君のご冥福を心よりお祈りする次第である。

本報告の横浜同級会は5月18日19日の1泊2日の日程で横浜あざみ野「三菱電機保養所」で開催された。今回も3年ぶりとなる同級生22名が各地から集まることとなり、元気で賑やかな会となった。懇親会は入浴を済ませ、鈴木(広)君の司会で6時に開宴となった。最初に、全員で高橋正嗣君と吉田則彦君の冥福を祈り1分間の黙とうを捧げた。振り返って

みると既に同級生10名が故人となつてしまったことになる。集合写真(添付写真)を撮影した後、竹政より次回、同級会開催地提案を横浜幹事会原案である2020年横浜開催と提案、交通の便、見学場所の豊富なことなど選択理由を説明、参加者より原案通り賛成が得られた。料理が揃い、ビールで森君の発声で乾杯した。

2時間半の宴会時間は短く、参加者には1人5分の近況スピーチをお願いしたが、それが時間内に全員終わるかどうかが、司会者をやきもきさせた。2次会は全員が保養所内の施設でもあるカラオケルームへ移動、再度開宴となった。横浜幹事が用意したアルコールとおつまみで、室内は高級スナックの様相を呈した。次々に自慢の喉を披露するだけで、あつという間に予定の12時を回ってしまった。最後は全員で「青葉燃ゆる」を合唱しお開きになった。

翌日の天気はまさに五月晴れ、計画する日程運びが良いのか、毎回、同級会翌日の見学会は晴天に恵まれている。今回の見学予定は、森君の尽力で午前中は神奈川県の日産自動車横浜工場見学、キリンビール内レストランで昼食、午後は中区根岸の三溪園散策という贅沢なコースである。17名が参加した。参加者全員が、電車で新子安駅へ向かい、そこからタクシーを乗り継いで日産自動車発祥の横浜工場を訪問した。日産自動車横浜工場見学は現役時代エンジン設計に力を注いだ森さんが、予め準備してくれた。機械科の卒業生で、森さんの会社の後輩、小松山さんにも見学に同行して頂いた。自動化と職場環境の進んだエンジンの組み立



宴会を前にして三菱電機保養所にて参加者 (5/18)

機械五十一年卒同期会

ものが中心で、池に映る紀州候別邸は見事なものであった。更に、近畿地方より運ばせた奇岩や庭石などが多く、その説明を聞きながら歩いて行くと徐々に身体もきつくなりだした。庭園は半分程廻って終了時間となった。見学者全員が根岸駅に戻り、午後3時解散となった。

また、3年後の2020年に元気で再会を誓って、家路を急いだ。

竹政 一夫

(機械工学科42年卒)

2017年4月1日に同期会の設立準備会が伊藤陽三さんのご尽力により、卒業生63名の内17名が集まり、東京駅近くで開催され、10月に仙台にて第1回を開催することとなりました。

場所は仙台出身の遠藤進さんをお願いして秋保温泉の、伊勢志摩サミットで財務大臣中央銀行総裁会議が開催された『伝承千年の宿 ホテル佐勘』とし、開催時期については、紅葉の頃を考え10月末の(金)(土)としました。

卒業以来41年ぶりの仙台での同期会ということで、機械系同窓会事務局にご相談したところ、棟内見学だけでなく教授による研究内容の講義も可能とお伺いし、お願いしました。

秋晴れの10月27日(金)、新幹線組は、2年前に開通した地下鉄東西線の青葉山駅で下車してケヤキ並木を機械系まで歩きました。ケヤキは40年の経過により、当時では想像もつかないほどの大木になっており、これには皆さんが圧倒され

ていました。計18名が揃い、14時から事務局の武井さんによる案内が始まりました。旧機械工学科の建物M1の5階へ上がり研究室の廊下を歩くと、当時の雰囲気だんだん思い出されました。

製図室の中に入ると、当時、提出締切日に追われていた時の焦りや苦労が昨日の出来事のように鮮明に蘇りました。

14時30分からは、エネルギー環境社会マネジメント分野を担当されている中田俊彦教授から、板が敷き詰められた研究室の案内をしていただきました。

続いて、各地域社会にふさわしい持続可能なエネルギーシステムを統合デザイ



て工場見学は、若い現役の時期の気持ちで沸き立つ楽しいひと時となった。時間が飛ぶように過ぎ去った。昼食は正午過ぎに近くにキリンビール工場のレストランで、横浜工場にて出来立てのビールを楽しんだ。陽気も良く、工場見学で相当距離を歩いたので、ビールの美味さは格別のものであった。この場でも交互に話が進み、時計にせかされて次の目的地の三溪園へ向かった。再び電車で根岸駅まで向かい、タクシーに分乗して三溪園に向かった。

見学は2つのグループに分かれて、ボランティアの案内で主要な建物群を見て回った。明治期に財をなした原三溪が、当時、奈良京都近辺で廃棄される文化財を購入し、再建したもので、その後文人墨客が集い、作品制作などの使用した大庭園である。邸内には自然の築山が有り、建物は桃山時代、江戸時代の茶道関連の

ンしていくという研究内容の講義がありました。エネルギー資源の種類、電力・熱・動力への変換、熱利用の見直し、地域の需要に合ったエネルギーシステムなど興味深い分野でした。定刻に講義は終わりましたが、その後、多くの質問が outstanding されてしまい、幹事が中に割って入り打ち切るといふ場面もありました。

ホテルでは18時30分から浴衣に着替えた参加者が集まり、物故者への黙禱のあと、乾杯の発声は一番遠くの岡山市から参加された安達勘助さんをお願いして宴会が始まりました。配布物として、当時の教養部の食堂、新築時の機械系建物、工学部のケヤキ並木の写真の他、個人の近況報告の掲載された名簿などを用意できましたので、皆さんが当時の記憶を明確に思い出してくれたことと思います。一人ずつの挨拶・近況報告、全員による学生歌『青葉もゆるこのみちのく』の合唱と続き、中締めとなりました。

二次会はホテル内の土蔵造りの中で、有志が持参した銘酒も披露され、カラオケで大いに盛り上がり、最後に肩を組み『青春時代』を大合唱し、三次会は幹事部屋で、皆さんが当時の思い出話に花を咲かせました。

翌日は、10名ほどの有志が秋保大滝、磊々峡、青葉城址などを巡り、皆さんがそれぞれ帰途につきました。秋保近辺の紅葉は多少早かったように思われましたが、立派な大滝、透き通るような川の流れる様子ができました。

次回の幹事は、2〜3年後の東京開催を前提として会田勝久さんと小島正さんにお願ひすることになりました。

ご多忙のところ講義いただいた中田教

授、棟内を案内いただいた事務局の武井さんには、大変お世話になりましたこと、この紙面を借りて御礼申し上げます。

鈴木 貞文

(機械工学科51年卒)

機械五十二年卒同期会

平成29年9月30日18時より機械工学科昭和52年卒の初めての同期会が仙台国際ホテルで晩餐会形式で行われました。世話人は、東北大学教員の西山秀哉、坂真澄の2名、参加者は予想以上の27名で直前に1名のキャンセルがありました。北は青森、南は宮崎、そして、裏は石川で、静岡からと萱場研出身が一番多い出席でした。今年は、卒業40年の記念すべき年で、個人的には同期会を開催したいとは以前から思っておりましたが、日頃の雑務に追われ、現在に至った次第です。きっかけは、平成29年9月30日、10月1日が東北大学創立110周年ホームカミングデーに合わせて、卒業後40周年、本学創立70期ということで開催を依頼された次第です。記念祭典では、坂先生と一緒に周年卒業生による思い出ステージで、「若かったあの頃」と題して機械工学科の学生時代を写真や当時の世相とともに振り返り、思い出をショートで語りました。さて、同期会では卒業から40年ということで、受付時に会場近くを見知らぬ人が歩いてきて、風貌のあまりに大きな変化からじつとよく顔を見て、ようやく我々の同級生でクラス会に来ていたんだと気付く次第でした。最年長で世話役の西山の乾杯の音頭で、晩餐会が始まりま

した。前触れもなく各人に3分間のスピーチをお願いしたにもかかわらず、ユーモアを交えて40年間の凝縮した話を酔いが回っても皆さんにほとんど時間内にしていただき、笑いに包まれまさしくトークショーでした。それぞれの人生ストーリーがあり、さすが機械52年卒だと思いました。大部分が未だに現役で、大学教員3名、JR東日本副社長の川野邊修君ら、その他メーカーの中心的な役職や自営業が大方で、まさしく「兵ども」でした。悠々自適の方は、少なかったようでした。異色の存在としては、富士重工から泌尿器科医に転身した高尾昌孝君や税理士の田中久義君もおり、まさにタレント群団です。また、当日参加されな



かった14名の近況報告も配布されました。折しも復興マラソンが開催されたことの影響か、当日は仙台でホテルが取れなかったとのことで、仙台から二時間の天童にホテルを取って出席いただいた人もおり、誠にありがたいと思えました。最後に、世話人坂君の一本締めで締めくくり、名刺交換や二次会へと散会しました。二次会では、12名ぐらいホテル内のバーで閉店まで、トークショーの余韻を楽しみながら別れました。

多様化し、混沌とした昨今において、クラス会で各自加齢度、自分の人生の足跡と立ち位置を確認し、機械工学科への帰属意識を高めることの大切さを認識しました。

次回は、願いを込めて東京地区の中原正大君を中心に開催のリクエストがありました。また、平成31年の機械工学科創立100周年も再会するいい機会です。最後に、今後の機械52年卒の皆様のご健康と楽しい人生を祈念いたします。

西山 秀哉

(機械工学科52年卒)

機械第Ⅱ四十二年卒同期会

卒後50年の同期会を9月28日(木)29日(金)に仙台で開催。卒業生48名のうち各地からの参加者20名。幹事は「母校と仙台の今昔を巡る」にテーマを絞って企画した。

〈一日目〉JR仙台駅で集合し、塩竈・松島方面へ向かう。待ち合わせ場所なら「政宗公騎馬武者像前」がお決まりだったが、今はそれが大ステンドグラスに変

わつていて最初の戸惑い。仙石線乗り場は地下に変わって、ホームにたどり着くまでやたら遠く感じた。本塩釜駅で下車したが、あいにくの強雨風。ここは3.11震災・大津波の後、高架駅となり、遊覧船乗り場までの歩道も津波襲来時の避難用として高架通路。松島湾内遊覧は、荒波に採まれながら、雨と波しぶきのため見えない景勝も、過去の記憶と結び付けて見えたつもりとした。松島棧橋を下船して瑞巖寺山門をくぐる頃には雨も止み、しつとりと濡れた境内を辿って、修復が終わったばかりの本堂内を拝観。障壁画や彫刻類も色鮮やかに塗り替えられていたが、名物のウグイス張り廊下は「ケキョ」とも鳴らなかった。数百年も経てばウグイスも廊下ならぬ老化したのだろう。仙台駅に戻り、バスで仙台市街から青葉山の下を貫通する仙山西道路のトンネルを通り秋保温泉/岩沼屋に向かう。このトンネルも当時は存在しなかったのだ。ひとつ風呂の後は会食しながらの近況報告。一人2分の制限時間では語りきれず、宴会時間を大幅にオーバー。持参した卒業アルバムを回覧すると、「こんなアルバムあったっけ?俺は見えないぞ。」という輩もいて「さては認知症か?」と遠慮ないヤジ。そして二次会でのおおかたの話題は、病気や手術自慢。やや進歩したのは「守破離や断捨離とはなんぞや?」と言う「離」学論議に熱が入り、アルコール類の消化ぶりも大幅減で、みんなの健康志向を実感した。

〈二日目〉バスで宿を出発して、すっかり変貌した仙台の街並みを車窓から眺めつつ仙台駅に向かう。50年前には存在しなかった仙台市営地下鉄の体験乗車



は、仙台駅から青葉山駅までほんの10分間。「どうやって青葉山の高さまで登って行くのだろうか?」が皆の関心事とは、さすが機械系卒だ。何のことはない、両駅間の地下での高低差はたった50mだとか。青葉山駅は地下深くにホームがあり、何回もエスカレーターを乗り継ぎしてやっと地上に出た。すっかり大木に成長した樺並木の歩道を800mほど散策した機械系の建物へ到着。同窓会事務局の武井康子さん笑顔のお出迎えで、研究室見学へ。足立・神田研究室と坂・木村研究室/燈明研究室とをじっくり見学させてもらう。懐かしの製図室は、一気に50年前の自分達を鮮明に呼び起こさせた。また、学科説明では機械系の組織が大幅に改編され、研究テーマも教育システムもすぐく充実・進歩したことを実感。夏休み期間中にも拘わらず、研究室には多くの学生が在室して留学生の顔も見受けら

れ、当学の豊かな国際性を垣間見た。次は隣接する仙台城址へ。ここに設置されている伊達政宗公像は、我々の時代にはコンクリート製の立像だったが、近年になりこれが本来の騎馬武者姿の銅像に復元されていた。久しぶりにここを訪れた仲間にとつては目新しく映ったことだろう。続いて、政宗公の墓所／瑞鳳殿を参拜。ここは仙台空襲で焼失して以降、荒れるがまだあったが、今は立派に廟所が再建され、外国からの観光客も多く訪れていた。昼食は片平キャンパスのレストラン「萩」で「萩御膳」「萩ビール」と萩づくしを堪能した後、仙台駅まで移動し、再会を約して解散。と言うことで、平凡な観光ルートながら、楽しさ・懐かしさ・驚きを満喫した50年目の同期会だった。この楽しかった思い出は、あと50年ぐらいい記憶に残ることだろう。

坂本 宏一

(機械工学第Ⅱ学科42年卒)

機械第Ⅱ四十五年同期会

平成29年3月30・31日に東北大学工学部機械工学第二学科の昭和45年卒第4回同期会(卒業生は57名)を仙台市秋保温泉「蘭亭」で開催しました。北は北海道青森県、南は愛知県、長野県からなど19名(同伴者2名を含む)が参加しました。同期会は卒業後一度開催されましたが、しばらく中断し6年前に水戸で久しぶりに開催する予定でした。その日は、混乱状況のなか、中止となりましたが、同期会幹事の熱心な呼び掛けで翌年再び

水戸で開催し、以来2〜3年おきに開催しています。

さて今回の同期会ですが、秋保温泉の湯につかっただけから乾杯ののち一言挨拶、近況報告、写真撮影、次回は二年後に神戸と決めいつも通りにぎやかな一夜となりました。二次会で、臨時同期会として来年秋ごろを別途として福島県会津方面が提案され、即決で行うこととなりました。

31日はマイクロバスで、秋保温泉名物の「おはぎ」を各自購入して、名取市^{あひ}上の震災慰霊碑に向かいました。慰霊碑は小高い丘にあるのですが、当時は完全に水没し、丘の上にある松の木にしがついて助かった話や、震災時の写真がパネルで展示してありました。閑上地域は地面の嵩上げ工事、住宅の建設など、多数の作業車がいきかい、復旧工事が進め

られていましたが、六年たった今でも手付かずな所が多い印象でした。改めて大被害を目の当たりにして、亡くなられた方々への慰霊と復旧を祈念して名取市をあとにしました。

名取市からいったん仙台まで戻り、青葉山を訪れました。人によつては数十年ぶりの青葉山キャンパスです。生協食堂など当時の面影はなくすっかり近代的な建物に変わっていて、久しぶりに学食を利用させていただきました。

昼食の後、機械システムコースの足立幸志教授により、機械科の変遷を含め現在の状況などについて説明して頂きました。当時の学科名はすっかり変わり、女子学生も増え時代の変遷は殆ど変わっていませんでしたが、内部は大幅改装され、特にトイレは当時コンクリートがむき出しの壁面でしたが、すっかり模様替えされて快適でした。

講義室での説明の後は昔なつかしい製図室を見学し、足立教授の研究室では機械接触面の制御につながるナノ界面技術の研究などについて実物をまじえて説明を頂きました。恩師先生がたが使用された机、椅子、本棚など当時の教授室に置かれ、保存されているのを拝見しました。工学部の訪問後は、市営地下鉄東西線に青葉山駅から乗車し、10分ほどで仙台駅に着き、再会を約して解散しました。最後に年度末でお忙しい中、時間をさいて頂いた足立教授、並びに訪問の時間調整などにご協力頂いた機械系同窓会事務局の武井さんに謝意を表します。

山田 仁

(機械工学第Ⅱ学科45年卒)



東北大学機械Ⅱ 昭和45年卒業生 同窓会 平成29年3月30日 於 秋保温泉 蘭亭

機械第II四十七年卒四十五周年同期会

平成29年11月17日、機械第II昭和47年卒業生の卒業後初めての且つ45周年の同期会をホテルグランドパレス仙台で開催しました。

そろそろ古希の我々はこれまで1度も同期会を開いたことが無く、元気な内に1度集まりたいと思っていました。今年卒業45周年ですので、数人の連絡の取れる同期生に諮つたら、是非やろうという事になりました。ところが、誰も名簿もアルバムも持っていない事が分かり、出鼻を挫かれておりました。そんな折、機械系同窓会事務局の武井さんに相談したところ、事務局で住所録の開示や案内の郵送等の支援をしていただけると励まされ、既に8月でしたが年内開催目指して実行に移すことができました。

49年修士を含む同期生60名の内、住所の分かる52名に案内を送付し、最終的には47名から返事があり、参加者は予想を大きく超えて21名となりました。

同期会当日、青葉山キャンパスと機械系の見学ツアーを計画し、13時に仙台駅に集合しました。皆の顔が分かるか不安でしたが、集合場所には年相応に老けてはいるが当時の面影のある顔が集まっています、一気に学生時代に戻ったように、肩を叩き合い再会を喜びました。初めて乗る地下鉄東西線で青葉山へ。青葉山で地上に出た景色の変わり様に一同驚きを隠せません。移転したばかりの農学部、震災後新設あるいは建替えされた研究棟に目を見張りながら、懐かしの学び舎に到着。蒸気タービンローター前で記念撮

影の後、機械系ツアーを開始しました。(これも同窓会事務局の武井さんに見学のアレンジをしていただきました。)

初めに西澤教授から機械系研究科の概要を45年前との比較を交えながらご説明いただき、続いて2班に別れ研究室の見学に移りました。微小機械構成分野では猪俣助教から小型赤外分光高度計等の微小機械・マイクロナノシステムの研究を、また、ロボットシステム分野では、荒井準教授と衣川助教からロボット同士や人との協調動作の研究をご紹介いただきました。45年前には無かった新しい研究分野に全員興味深く聞き入っていました。見学終了後、全員タクシーに分乗して同期会会場のホテルに戻りました。

同期会には同期生18人と、鎌倉から車椅子で参加してくれた中村君の奥様と、



(後列左から) 岩本、佐々木、松田、田辺、境野、小林、今村、松島、和田、
松澤、藤沼、阿部、関塚
(前列左から) 齋藤、毛木、黒田、進藤、町田、中島先生、中村夫人、中村

中島美樹子元東北大学教授(当時機械第二助手)が参加しました。開会に当たり、

発起人代表の黒田から歓迎の挨拶を行い、続いて来賓の中島先生のご発声で乾杯しました。料理と宮城の地酒等で口も滑らかになったところで、町田君の司会で全員で近況報告しました。皆さん、久しぶりの再会への想いが溢れ、仕事や地域貢献、趣味や病氣、家族や孫のことを滔々と披露し、結果、会の時間を大幅に延長することに。最後に松島君のリードで「青葉もゆる」を熱唱。皆忘れて歌えないのではと思っていたが、全員大声で歌えたのには感激しました。

次は50周年同期会を開くこと、それまでの間に関東で集まりを持つことを全員で確認し、再会を約束して散会しました。最後に、今回の同期会が実現できたのは機械系同窓会事務局武井様のご支援の賜物と改めて感謝致します。

黒田 久雄

(機械工学第II学科47年卒)

機械第II五十七年卒同期会

平成29年11月25日、26日、今年開催された同期会は、松島温泉・大観荘にて、中島先生(旧三戸研、元工学研究科国際交流室教授)にもご参加頂き、22名が集会となりました。

5年前の秋保温泉と同様、今回も中国、台湾など国内外の遠方から多く参加があり、宿泊手配や連絡にご苦労された幹事の方々には、心より感謝申し上げます。

さて、1日目午前中は、宮城野区の東北電力(株)新仙台火力発電所を見学しまし



た。そこは現在、酒田共同火力発電(株)社長・千葉秀樹君が6月まで所長を務めていたところです。まず最先端の高効率ガスコンバインド火力発電設備を見学させて頂き、次に東日本大震災での被害状況と新施設の地震や津波の対応状況について説明頂きました。昼食後は七ヶ浜国際ホールの屋上に登り、火力発電所の全景を眺望しながら震災復興の経緯や多方面に渡る取組みについて、仙台市環境局長・遠藤守也君に説明頂きました。

その後、客室から松島海岸を一望できる大観荘にチェックイン、大浴場で疲れをとった後、豪華宴会となりましたが、乾杯前から大いに盛り上がり、2次会のカラオケルームでは、有志がパフォーマンスを披露、3次会の宿泊部屋でも、時を忘れて互いの近況を語り合いました。

2日目は、青葉山キャンパスツアーで、旧機械工学系建屋は、現在では機械知能・



航空工学科という時勢の先端に行く学科名称となっていました。更に、そこには、円形でガラス張りの展示館、自動車の過去・未来館があり、フォード車製クラシックカー2台とF1エンジンが展示されています。

展示車は1926年製と1931年製で2008年に機械系の教職員と自動車部の学生らで構成されるボランティアチームの『工学の魅力を多くの方々に伝えたい』という本館の趣旨具現化のため自走できる状態まで修復されていました。また、トヨタ自動車より寄贈されたF1エンジンは、2006年のレギュレーション変更直前に製作され、3000CC、V10、900馬力と技術の頂点を極めたものであり、わずか百年でこれだけの飛躍を遂げる技術革新の偉大さに一同感激した様子でした。

最後に、旧機械工学第二学科建屋を背景に記念撮影をして解散となりました。今回参加の皆さんは卒業後一貫して日本の物作りの中核を担ってきた技術者であり、35年以上の歳月を経た現在、共にキャンパスを歩きながら旧交を深められることに、私自身は大きな誇りを感じました。同時に、これからも彼らに負けない充実した人生を送っていかねばならないと叱咤激励された思いでした。

次回の開催予定は東京オリンピックの年かなという事で、皆元気で再会することを楽しみにしています。幹事の方々、次回開催、よろしくお願いいたします。

(機械工学部第II学系57年卒)

越井 信弥

精密三十二年卒同期会

(第十九回目の同級会)

平成29年(2017年)11月8日(水)の午後、東京都文京区の小石川後楽園内の「涵徳亭」で、第19回目の同級会を開催しました。本人の出席は、直前になって一人が欠席したため、13名になり、昨年より1名少なくなりました。

今年は、卒業後60年の年にあたります。10年ぶりに、同伴者との出席を呼びかけ、加藤夫人、町夫人が参加してくださいました。八戸の妻も、京都の同級会以来12年ぶりに、皆さんにお会いしました。

東京の気温は日中の最高気温が17・5度で、前日(立冬)の21・2度より低く、昼近くには小雨が降ったにもかかわらず、開始時刻までに全員が揃いました。集合写真の撮影を、山崎勉氏にお願いし、

涵徳亭の庭を背にして二列に並び、シャッターを押してもらいます。

数年前から、病氣療養中の鈴木満明氏（成瀬研・浦安市）が、9月半ばに亡くなられました。毎年、同期会メンバーの近況と会の様子・写真を、心待ちにしておられました。大学時代同じ研究室だった、山本義次郎氏の言葉のあと、献杯をし、ご冥福を祈りました。

メンバーから差し入れられた日本酒とワインを味わいながら食事と歓談を始めます。各自から寄せられた近況報告を見ますと、療養中の人、外出に不安を感じる人もいれば、眼、耳、腰、脚のいずれかの部分に悩みを抱えている人もいます。

しかし、留学中のお孫さんを訪ねて外国に行き、前々日に帰国した人がいます。また、八月末に、長年の目的だった、東北地方の隅々まで車で走破する計画を完了した人もいます。

出無精になったと言いながら、今年ロンドンの美術館巡りをした人、認定社会福



前左から、市川嘉宏、小泉 晋、福来友康、加藤夫人、八戸夫人、町夫人、八戸信昭
後左から、高柳正彦、永田 充、山本義次郎、小野 傳、神賀 弘、上西武仁、加藤 洋、町 眞次、山崎 勉

社士としての仕事を継続し、二人の後輩福祉士の研修に従事している人もいます。運転免許証を返納した人がいれば、車の運転を続けている人も何人かいます。昨日、高齢者運転講習会に行つて、満点近い得点を取ってきた、と報告する人もいます。全員がすでに82歳を超えていることを考えると、毎年集まり、顔を合わせず機会に恵まれることに感謝しなければなりません。

平成30年（2018年）の同級会は、11月に、同じ会場（涵徳亭）で開催することになりました。同伴者との出席をお願いし、山崎氏と永田充氏にも加わっていただき、開催準備を進めていきます。

八戸 信昭
（精密工学科32年卒）

精密三十五年卒同期会報告

私達、精密35卒同期会は、従来3年に一度の間隔で開催してきた。

今年、メンバーの年齢が全員80歳の節目を迎えることに成り、今後、全員を対象とした会は難しいのではないかとの思いも沸いて来るこの頃で有る。

そこで今年5月に入り、あらかじめ、Oーさん、Iーさんにも意向を聞き会場は、前回同様の横浜のローズホテルで、期日は10月3日に予約を取り、メンバーに出欠の確認をすることにした。

その結果、現在連絡の取れるメンバーは26名で有るが、参加できそうな人は、13名で先ずは何とか同期会は実行出来そうであった。

一方、欠席者は足腰に自信がなく遠出

は無理な人、奥さんを一人にして置けない人、逆に本人に代わつて奥さんが代筆で欠席理由を書いてくれた人、等々13名であり、更に同期会の直前に成つて、体調が急変し諦めた人が3名で結局出席者は10名であった。

ただ、出席者の中に前回足腰が悪く欠席したIーさん、Hーさんが今回カンバックできたのは、嬉しいことだった。そんなこんなで同期会は予定通り10月3日に開催したが、先ず受付のロビーで再会の喜びで盛り上がり本会場では、前回同様全員順番に、最近一番時間をかけて居る事、体調の事、あるいは最近考えて居る事など喋り捲り、話し途中の質問、ヤジなど何でも有りとして、飲み放題の酒を飲み、美味しい中華料理を食べながら時は過ぎて行つた。

メンバーの中には、Iーさん、Hーさんの様に前回欠席した人が心身ともに復活し、仲間に出逢えた喜びを発散していた。又、Yーさんは、「今まで趣味で遣つて居た競技ダンスに加えて、サッカーや他のスポーツにも興味が有る」。

Tーさんは、美声をいかして「コーラスやオペラに挑戦している」。Oーさんは、「60歳からのパソコンに熱中している」。Uーさんは、「ゴルフ三昧だが、ややメタボが心配」。Nーさんは、「仕事は前半が設計研究、後半は土木現場の実践、良い体験をした」。等々、それぞれの思いを感慨深く話していた。更に、前々回、前回共に、欠席に成つた学生時代からユーモアを絶やさなかったSーさんのメールに「大動脈瘤、腸閉そく等の手術、そして下半身NG、しかし口だけは、まだ達者」と、言うメールには、深く心に

残った。

最後に成るが、私達は57年前、産業界の戦士として社会に送り出され、当初の技術はアナログ・エレキか、メカの制御で仕事はメカの製品が一般的であった。そして暫くしてデジタル・エレキの制御が登場し、その後、この傾向が更に進化した。最近ではAIを使った制御へ激変しそうである。既に現場を卒業した私達であるが、一面、不安な気持ちに成るが、この激変を静かに見守ることにしよう。

太田 穰

(機密35年卒)



第22期東北大学機械系同窓会通常総会・特別講演会のご案内

第22期通常総会ならびに特別講演会を下記要領にて開催いたします。
皆様お誘い合わせの上、ご参加下さいますようお願い申し上げます。

記

日時：平成30年3月3日(土)

会場：東北大学工学部中央棟2階

(青葉山キャンパス センタースクエア内)

〒980-8579 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉6-6

次第：14:00-14:30 総会

14:40-15:40 特別講演会

題目：複雑性の科学に基づく材料の時間依存型力学特性の解析

講師：横堀 壽光氏 (機械第Ⅱ48年卒)

帝京大学戦略的イノベーション研究センター 副センター長、特任教授
東北大学名誉教授

16:00-17:30 交流会

参加費：5,000円

連絡先：東北大学機械系同窓会事務局 武井康子

(月・水・金 10:00~16:00)

Tel/Fax：022-795-6926、e-mail：dousou@mech.tohoku.ac.jp

<http://www.mech.tohoku.ac.jp/dousou/>

事務局便り

◎同窓会誌及びニュースレターの原稿を募集しています。同窓会誌の原稿（カテゴリーにつきましては事務局に問合せください）、ニュースレターの同期会報告記事の原稿を投稿して下さい。400字詰め原稿用紙約2枚程度、記念写真一葉と一緒に郵送ください。電子データ（メール、CD等）でお送り頂けると助かります。（送り先）〒980-8579
仙台市青葉区荒巻字青葉 6-6-01
東北大学工学部 機械知能・航空工学科内
東北大学機械系同窓会事務局
Tel/Fax 022-795-6926
E-mail : dousou@mech.tohoku.ac.jp

ホームページ : <http://alumni.mech.tohoku.ac.jp/>
住所変更の場合、新住所をお知らせ下さい。

◎同期会の開催を支援します
同期会等の開催を支援致します。開催計画がお決まりになりましたら機械系同窓会事務局までご相談下さい。研究室見学をご希望、ご案内状の送付等できる限りのお手伝いをいたします。

◎機械系同窓会の会員数・・・現在 14,255 名
年会費・・・・・・・・・・・・・・2,000 円
事務局業務日：月・水・金 時間：10 時～ 16 時
FAX・メールは随時受け付け可能です。

会費納入について

会費納入にご協力いただきありがとうございます。第 22 期より会費納入方法が増えましたのでご連絡いたします。詳細は下記をご連絡ください。

会費納入方法

- 郵便局（ATM）での会費納入
複数年度の会費を納入される場合には郵便局用の払込取扱票をご使用ください。
- コンビニエンスストアでの会費納入
バーコードの付いたコンビニエンスストア用振込用紙をコンビニエンスストアへお持ちいただき納入ください。なおコンビニエンスストアでの支払いは単年度の会費のみとなります。
- ネットバンキングでの会費納入
ゆうちょ銀行や他行からのネットバンキングで下記口座を指定することで、会費納入が可能となります。申し訳ありませんが振込手数料はご負担ください。
ゆうちょ銀行 229 店 当座 0011176
- オンラインでの会費納入
下記の同窓会ホームページにアクセスいただくことで、クレジットカードによる会費納入が可能です。
東北大学機械系同窓会ホームページ <http://alumni.mech.tohoku.ac.jp/>

皆様からご納入いただきました会費は、下記の同窓会活動に役立てております。

- 総会、各種講演会の開催
 - 同窓会誌の発行（年一回）、ニュースレターの発行（年一回）と送付
 - 同期会開催の支援、研究室見学支援
 - 学生会員への各種支援
- 今後とも、会費納入にご協力くださいますようお願いいたします。

学生支援に関するご報告

毎年、機械系の学生に対して様々な支援を実施しております。5月には恒例の工明会運動会に機械系4専攻と流体研の各代表者に2万円ずつの支援（計10万円）、また機械系の女子学生に対する支援（10万円）、3月の卒業証書授与式後に開催される謝恩・祝賀会に支援（10万円）を行っております。

また、機械系学生と先輩との交流会として、機械系オープンフェスティバルを3月に開催しております。

この場をお借りしまして、同窓会の活動にご支援頂いた会員の皆様に厚く御礼申し上げます。

編集後記

同窓会ニュースレター 23 号をお送りします。皆様には、機械系の活発な活動をご周知頂き、今後とも同窓会運営にご協力頂ければ幸いに存じます。会費納入の利便性を向上させるために“コンビニエンスストアでの会費納入”、“オンラインでの会費納入”の二つを可能と致しました。最後になりますが、原稿執筆をご協力下さいました皆様に厚く御礼申し上げます。（編集委員一同）

23 号の表紙 機械系 2 号館 4 階から望むキャンパス

■同窓会事務局
月・水・金 10:00～16:00
Tel/FAX 022-795-6926
E-mail dousou@mech.tohoku.ac.jp